

【令和2年度】逗子市スポーツ推進計画 評価調書

事業名	逗子市スポーツの祭典の開催
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(1)
事業のねらい	全ての市民にスポーツ機会を提供し、継続的にスポーツを実施するためのきっかけづくり。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①逗子市スポーツの祭典の開催	実施		
②高齢者向けのスポーツ種目の検討	検討	実施	見直しと実施
③障がい者向けのスポーツ種目の検討	検討	実施	見直しと実施
④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催	検討		実施

事業予算	2年度	事業決算	2年度
	320,000円		270,000円

令和2年度の実施結果・特筆すべき実績	
①逗子市スポーツの祭典の開催	<p>東京2020オリンピック・パラリンピックへの機運醸成のため、大会前の令和2年4月29日(水・祝)に開催予定であったが、コロナ禍のため10月18日(日)に延期し規模を縮小して開催した。</p> <p>オンライン形式のイベントを取り入れ、4企画7種目を実施し、参加者数(動画再生回数含む)は延べ1,774人で前年度比720人減であった。</p> <p>池子400mトラックで実施した「フルフルマラソン」はオンライン参加とリアル参加で実施し、オンライン参加においては、10月10日にエントリーを開始し895人が参加した。リアル参加においては、障がいがある人や小さい子どもから高齢者まで289人が参加した。その他オンライン企画である「ずしキッズスポーツチャレンジ」では36組38人が動画に参加し、視聴回数は336回、「シズオとオンラインラジオ体操」の視聴回数は182回、「おうちでストレッチ」の視聴回数は延べ72回であった。</p>
②高齢者向けのスポーツ種目の検討	<p>うみかぜクラブ講師による「おうちでストレッチ(シニアヨガ・アブストラレーニング・太極拳)」を動画配信した。その他企画についても、オンラインを用いたことで会場に行かなくても誰もが気軽に参加できるイベントとした。</p> <p>福祉部による元気な高齢者を増やそうプロジェクトのe-スポーツ(太鼓の達人)等は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</p>
③障がい者向けのスポーツ種目の検討	<p>池子400mトラックで実施した「フルフルマラソン」のリアル参加においては、障がいのある人もボランティア等の協力により、健常者と一緒に参加することができた。</p> <p>その他企画についても、オンラインを用いたことで会場に行かなくても誰もが気軽に参加できるイベントとした。</p>

④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催	<p>当初は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの機運醸成のために、大会前の令和2年4月29日（水・祝）に開催を予定し、ラグビー元日本代表選手や車椅子バスケットボール日本代表選手など代表クラスの選手が参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により春の開催は見送りとなった。</p> <p>10月18日（日）開催時には、逗子市がホストタウンとなるスペインセーリングチームの本拠地であるサンタンデル（14,000 km）を目指す「フルフルマラソン」を実施した。また、連携イベントとして、スペインセーリングチームとの応援メッセージ動画の作成とオンライン交流会を実施した。</p>
----------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和2年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃スポーツをしない方や子ども、高齢者、障がいのある人等が興味を持って参加しやすいメニューづくりを心掛けたことで、「スポーツ機会の提供」及び「スポーツのきっかけづくり」に結びつく。 ・コロナ禍による閉塞感がある日常の中で、スポーツをすることのできる機会を提供することで日常的なスポーツ活動につなげることができる。 ・「ずしキッズスポーツチャレンジ」の動画配信により子どもたちが練習し成果を発表する場を提供することができ、スポーツの継続につなげることができる。また、普段あまりスポーツをしない子どもでも気軽にスポーツができ、スポーツをするきっかけとなる。 	
<p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの祭典をきっかけに一層スポーツに親しむことで、健康な心とからだをつくることに寄与する。 ・子どもから高齢者、障がいのある人や日頃スポーツに触れる機会の少ない人も含めて、市民がスポーツに取り組むきっかけとなり、市民の健康体力づくりにつながる。 ・スポーツを始めたい、再開したいという人が、スポーツを始めることで、地域のスポーツ環境の活性化につながる。 ・これらによる効果が、相乗効果となりスポーツを通じた活力に満ちたまちづくりを推進する。 ・オンラインでの企画を導入することでコロナ禍でもイベントに参加しやすい形を作ることができる。 	

所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。 C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・春に予定していた企画は中止を余儀なくされたが、コロナ禍においてもオンライン形式を取り入れる等の工夫によりイベントを実施できたことはスポーツをするきっかけを与えている。 ・参加者アンケートでは71.4%が「スポーツを始める（再開する）きっかけになる」と回答しており、きっかけづくりとなっている。 ・感染対策を徹底し参加者が安心して参加できるイベントとなった。 	

審議会での意見	
<p>●評価は B が妥当と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で制約があるため参加者数の減少はやむを得ない。何よりもこの状況下で実施したことが評価できる。 ・スポーツを人前でするのが苦手な人でも、オンラインを活用したことで、一人でもスポーツに取り組める環境を作れる等、オンラインの良さは気付かない以上にある。 ・オンラインを活用した新たな運営方法を実践しており、障がいの有無にかかわらず、現地に行かなくても参加できる工夫が評価できる。 ・唯一のリアル開催であった「フルフルマラソン」では、障がいのある方と健常者が同じフィールドで同じイベントに参加することができ、互いに応援する光景が見られる等、普段あまりできない体験をすることができていた。また、人数が多すぎないことで交流がスムーズに行われたという面もある。 	

事業名	スポーツと健康づくりに関する情報の充実と提供
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(2)
事業のねらい	地域のスポーツ指導者などを活用し、初めてスポーツをする方や、スポーツについてもっと知りたい・楽しみたい方の欲求を充実させ、新たな交流を創り出す。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用	データベース化	データベースを活用した情報の提供と登録者の充実	
②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用	内容検討	学習会の実施及び見直し	
③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応	内容検討	情報提供や相談への対応の実施	

令和2年度の実施結果・特筆すべき実績	
①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用	<p>市ホームページ上で「小学生のためのスポーツ団体一覧」を公開し、同じ情報を市民活動・生涯学習情報サイト「ナニスル」に掲載している。また、市立小学校全児童に配付した。</p> <p>市ホームページ上で県「スポーツ指導者情報(プラネットかながわ)」のリンクを掲載している。</p>
②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用	<p>逗子市スポーツ協会による講習会として指導者・審判員を対象とした審判講習会を行い、ソフトボールに22名の参加があったが、バレーボール、テニスは新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</p> <p>レクリエーション指導者講習会は、指導者、審判員、愛好者を対象に全3回延べ55人が参加した。</p> <p>国保健康課管理栄養士・保健師と逗子市スポーツ協会健康運動指導士の連携事業の「Zushi パーソナルトレーニングプログラム」及びスポーツ少年団指導者研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</p>
③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応	<p>市立体育館トレーニングルーム内に設置されている未病センターにおいて、筋肉量、体脂肪量、BMI、体脂肪率を簡単に計測できる機器を利用する等、健康づくりに取り組む方へのサポートを行った。</p> <p>未病センターの利用人数は、延べ8,353人(令和元年度28,645人)、1日当たりの利用人数は48.3人(令和元年度98.4人)であった。なお、新型コロナウイルス感染症の影響による市立体育館の臨時休館や人数制限を行っている。</p> <p>市立体育館指定管理者の健康運動指導士資格を有する職員による「健康・体力相談」を全8回延べ22人に実施した。(令和元年度 全39回延べ125人)</p> <p>逗子市スポーツ推進委員協議会を中心として、パラリンピック正式種目であるボッチャの普及活動が行われ、令和2年12月9日(水)には「ボッチャ体験」を行い(24人参加)、国保健康課の管理栄養士による「なんでも食事相談」と同時開催した。</p>

	逗子市スポーツ協会のスポーツ推進事業として、健常者と障がい者が垣根無くスポーツやダンス等を楽しめる「みんなでダンス&ソング&スポーツ」を全9回行い延べ162人が参加した。
--	---------------------------------------------------------------------------------------

令和2年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」は、情報を更新することで正確な情報が提供できるほか、新しいスポーツ団体が加わることは子どもの選択肢を広げるので、情報としてより良いものになっている。 ・「健康・体力相談」は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施回数は減少したが、市役所未病センターと連携し、スポーツによる健康づくりをサポートする場としての周知と利用が進む。 ・パラリンピック正式種目である「ボッチャ」の普及活動は、東京2020パラリンピック競技大会に向けた市民の機運醸成につながる。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ情報の継続的な提供は、市民がスポーツをはじめのきっかけになるとともに、スポーツ団体への加入等により、スポーツを通じた市民同士の交流づくりにつながる。 ・「健康・体力相談」の実施は、初めてスポーツに取り組もうとする人に対して、最初の一步を踏み出しやすくするだけでなく、健康な生活習慣の重要性への気づきや理解を深めることにつながる。 ・パラリンピックの正式種目の競技を実際にやってみることは、競技スポーツやパラスポーツに対する関心や興味を高めることにつながる。 ・障がいのある人でも健常者とともにできるスポーツ教室があることでスポーツをする場が広がり健康づくりにつなげることができる。 ・指導者養成教室を継続的に実施することで、適切かつ安全なスポーツへの取組み方が市民に普及する。 	

所管課による自己評価	A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から「小学生のためのスポーツ団体一覧」の配付による情報提供を開始し、毎年情報の更新を行っている。県や逗子市スポーツ協会が保有する指導者等の情報の共有及び活用については、さらに関係機関との連携が必要である。場合によっては提供の仕方を工夫する等について検討していく。 ・市役所未病センターと市立体育館未病センターの保健師と健康運動指導士が、役割分担をしたうえで事業を実施し連携している。ただし、健康運動指導士については現在も有資格者が1名なので、今後事業が拡大するためには、増員等について指定管理者と引き続き協議していく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により「健康・体力相談」の実施回数が減少したが、できる限り実施するよう努め、事業を継続することができた。 	

審議会での意見	
<p>●評価は B が適切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における施設の休館等により参加者数は減少しているが、未病センターのスポーツ健康相談は自分の生活を振り返る良い機会となっている。気軽に相談できる体制や保健師及び健康運動指導士による丁寧な対応は今後も継続されたい。 ・スポーツ団体一覧をきっかけにスポーツ少年団等の加入につながっていることは評価できる。コロナ禍における子ども達の運動につなげる取り組みであり継続されたい。また、スポーツの祭典などで体験ブースを設けて気軽に体験できるとスポーツを始めるきっかけにつながると考えられるため、そのような機会が更に増えるとよい。 	

事業名	小・中学校を拠点とした子どもの健康・体力づくり
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(3)
事業のねらい	子どもの運動不足解消や体力・運動能力の低下の改善のための、情報提供及び環境づくり。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①体育授業や運動部活動への指導者の派遣	派遣先との調整	指導者の派遣	
②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供	派遣先との調整	指導者の派遣	
③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応	内容検討	情報提供や相談への対応の実施	

令和2年度の実施結果・特筆すべき実績	
①体育授業や運動部活動への指導者の派遣	<p>市立中学校2校において、学校支援地域本部が派遣する形で、PTA・OB/OG・顧問の紹介等による地域講師が部活動の指導を行った。派遣先の運動部系部活動は2校合計で3部5人(令和元年度は3校合計で7部12人)の外部指導員が派遣された(逗子中:バドミントン部3人、野球部1人、沼間中:剣道部1人)。</p> <p>逗子市スポーツ推進委員が小坪小学校において、小学4年生の総合学習授業の支援として、審判まで含めたボッチャの指導を行った。</p>
②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供	<p>体験学習施設スマイルでのスポーツ団体と連携した企画を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。</p>
③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応	<p>「小学生のためのスポーツ団体一覧」を市立小学校の全児童に配付するとともに、市ホームページ、ポータルサイト「ナニスル」等で公開し、周知に努めた。掲載情報は、情報を更新し、充実を図った。さらに、市ホームページ上で県「スポーツ指導者情報(プラネットかながわ)」のリンクを掲載している。</p> <p>また、逗子市スポーツ協会の自主事業であるジュニアスポーツ教室の情報を広報「ずし」と「ZASA Sports News」に掲載している。</p>

令和2年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OB/OG 中心の外部指導者を活用することで、学校でのスポーツ活動への理解が高く、スムーズな指導を実施することができる。 ・学校側の目的である障がいのある児童がスポーツを楽しむ「場づくり」のきっかけを作る。また、運動が不得意な子どもでも楽しめるポッチャを通じて、運動する子どもとしない子どもの二極化解消のきっかけにもなる協力を行うことができる。 ・毎年「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報を更新することで、スポーツを始めたい子どもに最新の情報提供ができる。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部活動への地域の外部指導者の派遣は、地域と子どもがつながるきっかけとなるだけでなく、より専門性の高いスポーツに触れる経験や効果的な指導を受けることで、運動能力の向上や競技スポーツへの関心を高めることも期待できる。 ・教職員へのポッチャの指導を継続していることは、地域全体での普及につながることを期待できる。 ・子どもが市内のスポーツ団体での活動を行うようになると、学校以外のスポーツを通じた地域内交流を経験することができる。 	

所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため指導者の派遣や「健康・体力相談」の件数はやや減少したが、継続して実施することができる。 ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報を随時更新し周知に努めている。 ・ジュニアスポーツ教室の情報を「広報ずし」や「ZASA Sports News」に掲載し周知に努めている。 ・県の「スポーツ指導者情報（プラネットかながわ）」のリンクを市ホームページに掲載することで、教室だけでなく指導者の情報も周知している。 	

審議会での意見	
<p>●評価は B が適切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ団体一覧をきっかけにスポーツ少年団等の加入につながっていることは評価できる。コロナ禍における子ども達の運動につなげる取り組みであり継続されたい。また、スポーツの祭典などで体験ブースを設けて気軽に体験できるとスポーツを始めるきっかけにつながると考えられるため、そのような機会が更に増えるとよい。 ・学校現場では部活動の指導者がいないことが大きな問題となっている。これからの部活動には地域から指導者が派遣されることが必ず必要になってくるが、逗子市では学校支援地域本部の事業等として地域の指導者を派遣している点では、今後も重要な取り組みとして期待する。 ・小坪小学校でのポッチャ体験については、視覚障害のある方が参加され、その方を児童が自ら考えてサポートする等、貴重な体験につながっていた。今後も継続されたい。 	

事業名	「うみかぜクラブ」の活動内容の充実
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の（4）
事業のねらい	生涯にわたって、誰もが、気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与し、クラブの自立化・安定化を図る。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①経営の自立化に向けた検討・調整	自立に向けたビジネスモデルの検討		自立化
②広い世代を対象とするための取り組みと実施	取り組み方の検討	実施	見直しと実施
③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体づくり教室の実施	取り組み方の検討	実施	見直しと実施
④スポーツメニューの見直し	取り組み方の検討	実施	見直しと実施

※事業決算については、うみかぜクラブの自主財源により事業を実施していることから省略。

令和2年度の実施結果・特筆すべき実績																									
①経営の自立化に向けた検討・調整	<p>経営の自立化に向けて、平成30年度にメニュー等の大幅な見直しを図った上で自立化につなげている。</p> <p>うみかぜクラブのPR活動として広報「ずし」及び逗子市スポーツ協会がスポーツ振興くじ助成金の交付を受けて発行している「ZASA Sports News」に情報を掲載している。</p>																								
②広い世代を対象とするための取り組みと実施	<p>メニュー数は、前年度と比較して3メニュー（ポッチャ&吹き矢・ボディメンテ・シニアヨガ）増の19メニューとなった。施設の臨時休館等もあり、延べ開催数は398回（令和元年度761回）、延べ参加者数は11,014人（令和元年度21,136人）と減少した。</p> <p>【年代別の登録者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～19歳</td> <td>53人</td> <td>56人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>20～39歳</td> <td>19人</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>40～59歳</td> <td>76人</td> <td>69人</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>60歳～</td> <td>485人</td> <td>477人</td> <td>382人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>633人</td> <td>614人</td> <td>498人</td> </tr> </tbody> </table> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、保健センターがPCR検査会場となったことで「高齢者体力アップ体操」及び新規メニューの「ボディメンテ」は実施できなかった。</p>		平成30年度	令和元年度	令和2年度	0～19歳	53人	56人	45人	20～39歳	19人	12人	11人	40～59歳	76人	69人	60人	60歳～	485人	477人	382人	合計	633人	614人	498人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度																						
0～19歳	53人	56人	45人																						
20～39歳	19人	12人	11人																						
40～59歳	76人	69人	60人																						
60歳～	485人	477人	382人																						
合計	633人	614人	498人																						
③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体づくり教室の実施	<p>高齢者対象のメニューの「ZUMBAGOLD®」708人、「シニアヨガ」422人「健康体操」1,647人の延べ2,777人（令和元年度2,881人）の参加があった。</p> <p>パラリンピックの正式種目である「ポッチャ」を取り入れ11人の参加があった。</p> <p>また、「高齢者体力アップ体操」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p>																								

④スポーツメニューの見直し	高齢者メニューの中でも運動強度を抑えた内容とすることで高齢者自身の体力に合わせられ、より多くの高齢者が参加できるものとして、新メニュー「シニアヨガ」「ボディメンテ」「ボッチャ&吹き矢」を設定した。なお、「ボディメンテ」「吹き矢」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和2年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
【短期的効果】 <ul style="list-style-type: none"> ・年会費、参加費、メニューの見直しを行った結果、自立に向けた経営組織体制の構築が進展する。 ・メニューの見直しにより、新たな会員の入会が促進する。 ・高齢者や障がいのある人がスポーツや体力づくりに向けた運動を取り組むきっかけづくりを提供できる。 	
【中・長期的効果】 <ul style="list-style-type: none"> ・メニューの見直しにより、よりニーズに合ったメニューを導入することで登録者数の増加につながる。 ・パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」を取り入れることでパラリンピックの競技への理解が深まりパラリンピックの競技の更なる普及につながる。 	

所管課による自己評価	A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。 C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数が減少したが、新たに導入した「シニアヨガ」が好評であり、制限があるなかでも一定の評価はできるものとする。コロナ禍においてもメニュー数が増加することができた。 ・コロナ禍により実施できない期間があったが、高齢者メニューについては多くの参加があった。 	

審議会での意見	
●評価は <input type="text" value="B"/> が妥当と考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において高齢者の登録者数は減少しているものの、地域に根差した活動の結果として500人近くの会員数であることは評価できる。 ・コロナ禍において多くの総合型地域スポーツクラブが縮小して活動が制限されている中、うみかぜクラブは非常に積極的に事業展開している。筆習い等の文化メニューで参加者の増加を図る等、メニューの見直しをしながら、経営の自立化もできている。自立化はある程度事業の規模数がないと難しいが、上手くバランスをとりながら運営できている。 ・メニューの参加人数だけで評価するのではなく、各メニューの参加者に満足度をアンケートし満足度を評価に取り入れながら事業展開していくことが好ましい。 	